

貧而仕夫

ト人々此レヲ見テ、皆哀ガリケリ、其人ト云事ハ不知テ、止ニケリトナン、語リ傳ヘタルトヤ、
〔古事談^二臣節〕昔惟成ノ許ニ、文書ノ雲客等來集之日、只有四壁、而市ニ餉ヲ交易シテ、相具甘葛煎指
出云々、又無侍、件妻ヲ半物體ニ成テ出タリ、

〔古事談^二臣節〕惟成辨清貧之時、妻室廻善巧、不令見恥云々、而花山院令即位給之、刻離別之、爲滿仲之
賀、因茲件舊妻成忿、請貴布禰祈申云、不可忽卒、只今成乞食給ト云、百ケ日參詣之間、夢示給ハク、件
惟成無極幸人也、何忽成乞食哉、スコシキ有可構之事云々、不歷幾程、花山院御出家、惟成同出家、行
頭陀云々、爰件舊妻辨入道長樂寺邊ニコソ乞食スナレト聞得テ、饗一前白米少々隨身シテ、隱居
テ抱入テ談往事、或哭或怨云々、入道承諾云々、

〔明良洪範^二〕淺野ノ家士四十七人ノ外、小島喜兵衛ト云者有、元ヨリ大石ト深ク談ジ、東行ニハ必
ズ同道スベシトテ、其期ヲ待居タレド、程久シク成テ、段々貯ヘノ金銀モ盡テ、今日ヲ暮スベキ力
モナク、山科ヘモ行レズ、大阪ノ福島ト云所ニ住ケル、差替ノ大小モナクシテ、如何セント思ヒシ
ニ、大小ノ切羽ヲハツシ、ヨフノト其月ノ店賃ナド殘ラズ拂ヒ、女房ヲバ水賣ニ遣シ、其跡ニテ
諸事取仕舞、心靜ニ自害シケルニ、笛ヲ搔損ジ、死兼テ居タル所ヘ、妻女歸リテ、此有様ヲ見テ、其儘
ニ夫ヲ引仰向テ、最早助リ給フマジ苦シミナク終リ給ヘ、我モ同道ナリト、夫ヲ介錯シテ、其身心
元ヲ指通シ、伏重リテ死シケルト也、此妻ヲ相具シテ、間モナカリケレドモ、夫ヲ勸メ、何卒主君ノ
仇ヲ討給ヘト、常ニ力ヲ添テ、仇ヲ報フノ外他事ナカリシト也、今日マデモウレヒヲシノギ、大望
ヲ心掛シニ、力盡テ死シテ志シヲ立テシ也、

貧而立志

〔近世畸人傳^五〕雪山

雪山は、北村三立といひしかども、世に號をもてしらる、肥後の人にして、諸國に遊ぶ、文學ありし
かども、獨り書名高し、書法は漢僧雪機に學たり、初赤貧にして、屋破れ雨漏に、沐浴盤を高く釣、其